

## 子育てバリアフリーを通じた福祉のまちづくりに関する検討

松井 剛太<sup>1</sup> 岡花 祈一郎<sup>2</sup> 佐藤 智恵<sup>3</sup> 田中 沙織<sup>3</sup> 飯野 祐樹<sup>3</sup> 古賀 琢也<sup>3</sup>

### The examination of welfare community from the view point of barrier-free in child-rearing

Gota Matsui<sup>1</sup>, Kiichiro Okahana<sup>2</sup>, Chie Sato<sup>3</sup>, Saori Tanaka<sup>3</sup>, Yuki Iino<sup>3</sup>, Takuya Koga<sup>3</sup>

The “barrier-free in child-rearing” has been used as an expression that showed the maintenance of the environment of living that supported the child-rearing. There is an aim promoting barrier-free in child-rearing, such as the public buildings, the public transport facilities, and the city park, etc. The barrier-free in child-rearing needs not only material maintenances but also consciousness of people against the barrier-free in child-rearing. This research will show the information that the parents who are in child-rearing tend to miss out at the facilities concerning the barrier-free in child-rearing. As a result, to improve the convenience with utilization of facilities from the parents in child-rearing of view, as well as the wheelchair marks, the mark that is available for the parents in child-rearing. In addition there is effort that provides some information with publicity. Furthermore, user will feel mental barrier from the building structures. Therefore there are some cases that they will hesitate to use the facilities even staff recommend it.

**Key Words :** Words:child-rearing, barrier-free, Higashi-hiroshima city

#### 目 的

「子育てバリアフリー」は、少子化対策プラスワン（厚生労働省、2002）において、子育てを支援する生活環境の整備を示す文言として使用された後、広く知られるようになった。その後の子ども・子育て応援プラン（厚生労働省、2004）では、子育てバリアフリーの推進として具体的施策が明示され、子育て支援対策の一つに位置づけられている。その中で、子育てバリアフリーを進める対象として、公共性の高い建築物、公共交通機関、都市公園などが挙げられており、段差の解消や託児室・授乳コーナー・乳幼児に配慮した多目的トイレ等の設置が推奨されている。

しかし、子育てバリアフリーはこのような物的整備のみにとどまらない。同時に、子育てバリアフリーに対する人々の意識啓発のための取り組みも必要である。多くの市町村では、子育てバリアフリーマップを地域住民と協働して作成するなど（松永、2003）、子育てバリアフリーに対する人々の意識面の啓発が進められている。そのような中、高橋・野村・八藤後（2006）は、バリアフリーマップ作りのフィールドワークを通して、地域住民の意識上の変化を調査した。その結果、住民は、普段の生活においては気づかなかつた子育て支援のための設備に関して調査を通して新たに発見することがあることを指摘している。この結果は、人々が無意識に過ごしている日常においては、子育てバリアフリーに関する設備に気づかない場合があることを示唆している。つまり、子育て中の親が実際には利用できる設備があっても、見落とす場合

1 広島大学大学院（現 香川大学教育学部）  
2 広島大学大学院（現 幼年教育研究施設）  
3 広島大学大学院

があると考えられる。

本研究では、子育て中の親が子育てバリアフリーに関する設備等でどのような情報を見落としやすいのかを明らかにすることを目的とする。これは、人々の子育てバリアフリーに対するさらなる意識啓発に向けて、子育て情報の提供の際、どこに重点を置くかを考える上で貴重な示唆を与えるものとする。

## 方法

### 1. アンケート調査

#### 1) 調査内容

東広島市内の公共施設（西条駅、東広島市役所、市民文化センター、中央公民館、スポーツ交流センター、公園、体育館）について、子育てに関連する設備の設置状況に関する質問紙を作成した。質問内容は、第一に、フェイス・シートとして、回答者の年齢、性別、子どもの人数、子どもの年齢、子育てに関する情報の入手方法、子育てに役立つ情報の種類について回答を求めた。第二に、先述した公共施設別に、子育てに関連する設備を利用する際の不便さについて、全く感じない・あまり感じない・ときどき感じる・いつも感じる、の4件法で回答を求めた。調査項目は表1の通りである。なお、西条駅の調査では、表1に提示した14項目、東広島市役所、市民文化センター、中央公民館、スポーツ交流センター、体育館では、11項目まで、公園では10項目までを調査した。

表1：調査項目

1. 施設入口に段差がある
2. 多目的トイレがない
3. 託児室がない
4. お遊びスペースがない
5. トイレにオムツ替えシートがない
6. トイレにチャイルドキープがない
7. 貸しベビーカーがない
8. 授乳スペースがない
9. 駐車場が狭い
10. 赤ちゃんを寝かせられるスペースがない
11. エレベーターがない
12. 駅の改札が利用しにくい
13. 駅のホームからの乗降がしにくい
14. 電車の乗客の目が厳しい

#### 2) 調査対象

東広島市内にある2つの保育所の子育て支援センターを利用している親を対象に200部アン

ケートを配布した。有効回答数は142、回収率は71%であった。回答はすべて母親によるものであった。

## 2. 実地調査

6名の調査者がアンケート結果を踏まえたチェックリストをもとに、子育てに関連する設備の設置状況を調査した。2人で1つの施設を担当した。

## 結果

### 1. アンケート調査

#### 1) フェイス・シート

##### ①回答者の属性

回答者は30代の母親が多かった（118名：83.1%）。子どもの人数は4人以上がおらず、子どもの年齢は多くが0～2歳であった（表2）。

表2 回答者の属性

母親の年齢		子どもの人数		子どもの年齢	
19歳以下	0	1人	58	0歳	18
20～24歳	4			1歳	42
25～29歳	15	2人	68	2歳	40
30～34歳	72			3歳	28
35～39歳	46	3人	16	4歳	11
40～44歳	5			5歳	2
45～49歳	0			4人以上	0
50歳以上	0				

##### ②子育てに関する情報源（3つまで複数回答可）

保護者は子育てに関する情報を、子育て支援センターや園庭開放、広報「東広島」、友人知人からの口コミから得ていることが明らかになった。

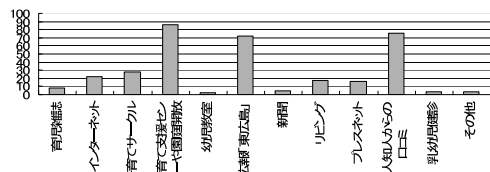


図1 子育てに関する情報源

##### ③子育てに必要な情報（3つまで複数回答可）

子育てに必要な情報として、以下の15項目（①地域のイベント情報、②子連れで楽しめる施設情報、③子連れで入れる美容院、④親子連れで入れるレストラン・食堂、⑤子育て中でもできる仕事の情報、⑥子育てサークルの情報、⑦地域の遊び場情報、⑧生活の知恵、⑨他の人

の子育て方法, ⑩子育て支援センター情報, ⑪家庭でできる遊び方, ⑫子どもの病気について, ⑬幼稚園・保育所情報, ⑭しつけなどの育児相談, ⑮その他)の内, 3つまで選択可能で回答を求めた。その結果, 回答者が望む子育てに関する情報では, 子連れで楽しめる施設情報が突出していた。また, 地域のイベント, 親子連れで入れるレストラン・食堂, 地域の遊び場情報, 幼稚園・保育所情報の回答が多く見られた。

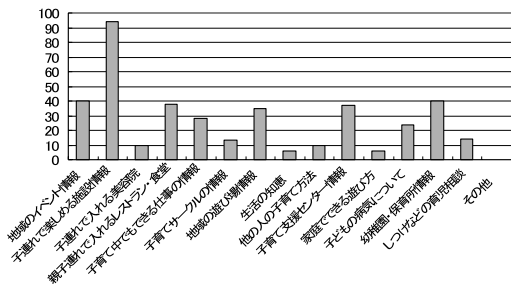


図2 子育てに必要な情報

2) 公共施設別のアンケート結果

①西条駅

西条駅の利用に関する母親の意識として, 不便さを感じる人が多いのは, 駐車場が狭いこと, 多目的トイレがないこと, エレベーターがないこと, 入り口に段差があることであった。

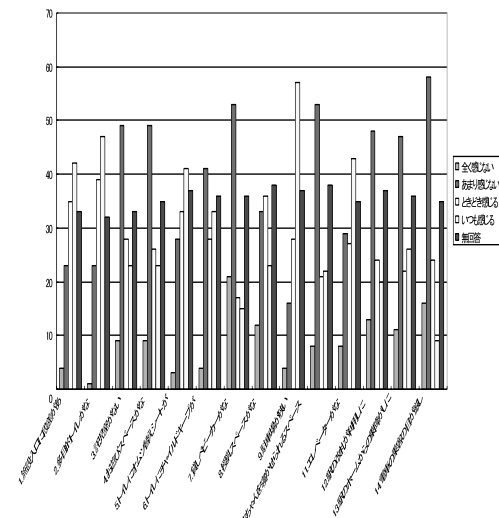


図3 西条駅の利用に関する母親の意識

②東広島市役所

東広島市役所の利用に関する母親の意識として, 不便さを感じる人が多いのは, 駐車場が狭いこと, 多目的トイレがないことであった。

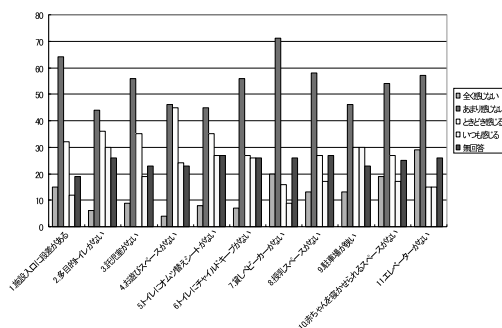


図4 東広島市役所の利用に関する母親の意識

③市民文化センター

市民文化センターの利用に関する母親の意識として, 不便さを感じる人が多いのは, 無回答が多く見られた。自由回答には, 「利用していないため分からない」というものが多く, 子育て中の保護者の利用自体が少ない実態が明らかになった。

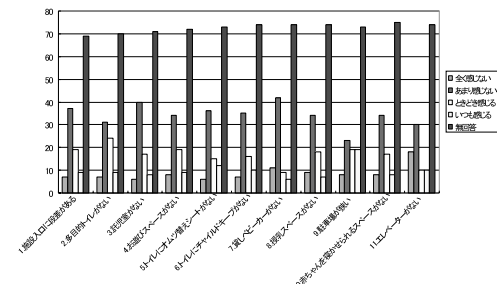


図5 市民文化センターの利用に関する母親の意識

④中央公民館

中央公民館の利用も市民文化センターと同様に無回答が多く見られた。イベント等の広報に改善の余地があると考えられる。

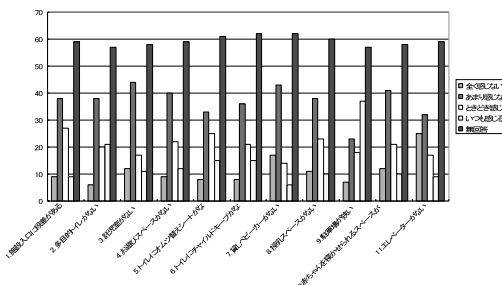


図6 中央公民館の利用に関する母親の意識

⑤スポーツ交流センター(おりづる)

スポーツ交流センター(おりづる)の利用についても, 利用者が少ない結果となった。立地などの要因で利用施設として優先されにくいこ

とが考えられる。

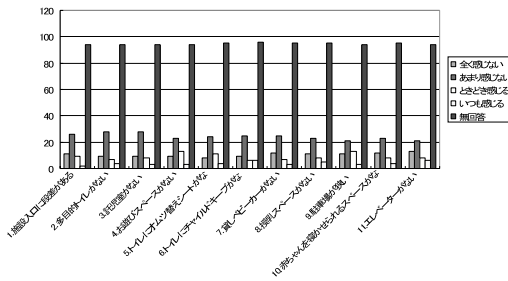


図7 スポーツ交流センターの利用に関する母親の意識

## ⑥公園

公園の利用に関する母親の意識として、不便さを感じる事が多いのは、多目的トイレがないこと、駐車場が狭いこと、トイレにオムツ替えシートやチャイルドキープがないことであった。

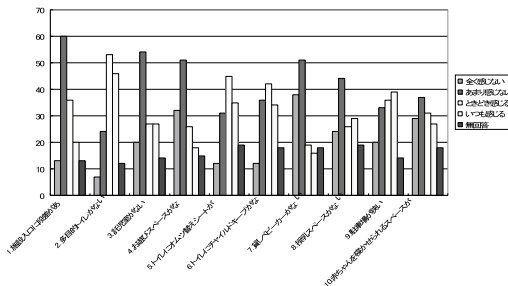


図8 公園の利用に関する母親の意識

表3 自由記述(公園)

公園名	内容
中央公園(18)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● いつも駅前フジで授乳やオムツ替えをしている</li> <li>● 大きめの遊具が多く乳児だと遊びにくい</li> <li>● トイレはいつもきれいにそうじがされているが、男女入り口が一緒に使いづらい。古い感じがする。また、砂場に直接日光が当たるので夏場は遊ばせられない。砂場にも木陰があると良いと思う。</li> <li>● 中央公園に駐車場がない</li> </ul>
三つ城公園(12)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 駐車場、トイレが不便</li> <li>● 駐車スペースが少ない。トイレも子ども連れが利用しやすいようにしてほしい</li> </ul>
鏡山公園(7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 鏡山公園は駐車場から遠い、狭い</li> <li>● トイレ、遊具にもっと工夫してほしい</li> <li>● トイレのオムツ替えシートがない</li> </ul>
憩いの森公園(5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● トイレのオムツ替えシートがない</li> </ul>
運動公園(5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● トイレのオムツ替えシートがない</li> <li>● トイレが遠い</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● どの公園も日陰がなく真夏に遊べない</li> <li>● 寺家近くに公園がない</li> <li>● すべての公園の駐車場が狭い</li> <li>● わたなべ耳鼻科の裏(トイレがない、日かげが少ない、遊具が痛んできている)</li> </ul>

## ⑦体育館

体育館を利用している保護者は少なかった。

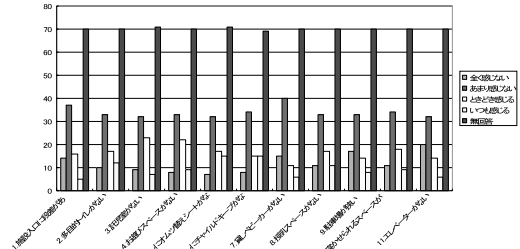


図9 体育館の利用に関する母親の意識

## 2. 実地調査

アンケートの結果から、実地調査の対象を回答者の利用頻度の多い西条駅、東広島市役所、公園(中央公園、三つ城公園、鏡山公園、憩いの森公園、東広島体育館)に絞り検討した。

### 1) 西条駅

アンケート結果に見られたように、多目的トイレはなく、トイレ内にオムツ替えシートやチャイルドキープもなかった。構内にあるベンチの座席は1人ずつ座る仕様で、1人分のスペースごとに区切られており、赤ちゃんを寝かせるのは困難であった。

アンケートで多くの回答者が不便とした「入り口の段差」については、ベビーカーで利用できるスロープがついていた。利用方法について駅職員に尋ねたところ、利用者がスロープ入り口にあるインターホンを押して職員を呼び、スロープから構内に入ることができるということだった。車椅子のマークを示す標識が複数あるため、ベビーカー利用者が使用できるという認識にはなりにくいと思われる。マークに工夫をするなど、ベビーカーを使用する子育て中の親も利用可能であることを周知する必要があるだろう。また、インターホンで職員を呼び出さないと利用できないという仕組みは、利用者の心理的負担を考えると、意識上のバリアを生む構造になっていることが推察される。



図10 西条駅のスロープとインターホン

なお、同市にある東広島駅では、入り口に段差はなく、トイレにも、男女ともにオムツ替えシートがあり、多目的トイレは車椅子、オストメイト、乳幼児に対応する標識が見られた。東広島駅に比べると、西条駅は子育てバリアフリーの面で遅れているといえよう。



図11 東広島駅のトイレの標識とオムツ替えシート

## 2) 東広島市役所

アンケート結果では、駐車場が狭い、トイレの利用（多目的トイレ、トイレにオムツ替えシート・チャイルドキープがない）、子どものお遊びスペースがないことに関して不便さを感じるという回答が多かった。

駐車場は狭くはないが、空きスペースが少ないために不便さを感じる人が多いと考えられる。駐車場から庁舎まではスロープがついており、ベビーカーの利用が可能である。だが、スロープには屋根がついておらず、雨天時には不便であることが推測される。アンケート結果に反して、庁舎一階の女子トイレにオムツ替えシートがあり、備え付けのベビーベッドと子どもが遊ぶための適当なスペースがあった。

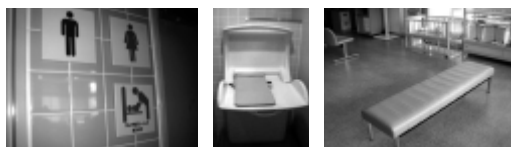


図12 東広島市役所のトイレとベビーベッドの設備

しかし、子ども連れの保護者がよく利用するという児童福祉課のあるフロア（別館2階）には、トイレに同様の設備がなく、ベビーベッドや子育て情報の広告、絵本はあるものの、スペースは狭く感じられた。全体的に設備は充実しているものの、保護者の利用実態と設備の配置に課題があると思われる。



図13 東広島市役所児童福祉課のフロアにある設備

## 3) 中央公園

西条駅に近く、市役所や中央公民館の近くにあり立地的に非常にめぐまれている公園である。ただ、アンケートの自由記述では「駐車場がない」というように中央公園専用の駐車場がなく、利用者が限られてくるという問題点がある。もうひとつ問題点として、遊具・トイレなどの公園設備がいずれも古いということが挙げられる。段差も少なく広いスペースのなかに多様な遊具が存在しているが、遊具は全体的に老朽化が進んでいるようである。トイレに関しては、男女とも入り口がひとつであり、しきりもないため、外からトイレ内の様子がみえてしまうという構造的な問題点もみられた。オムツ替えシートやチャイルドキープはないため、アンケートからは「いつも駅前フジで授乳やオムツ替えをしている」という声も聞かれた。新たに授乳スペースやオムツ替えシートなどの整備が必要だろう。



図14 中央公園のトイレの設備

## 4) 三つ城公園

全体的に階段は少なくスロープ状になっており、ベビーカーでも通りやすい構造である。ただ、古墳という性質上、なだらかではあるが、かなりの高低差がある。三つ城小学校側には木製のアスレチックで遊べるスペースがある。アンケートの自由記述からは、駐車場やトイレが不便という声が挙がっていた。駐車場に関しては、三つ城小学校側にある駐車場と2号線の測道沿いに2箇所の駐車場があり、それぞれ20台程度の駐車が可能である。ただ後者の駐車場は入りにくく、認知されにくい場所にあるという印象を受けた。トイレは1箇所、三つ城小学

校側の駐車場横にある。トイレは比較的きれいに整備されているが、オムツ替えシートやチャイルドキープなどは整備されていない。



図15 三つ城公園のトイレと遊具

また、トイレの裏に事務室が設置されており、土日だけが公園管理や古墳に関する紹介ボランティアが駐在していた。ボランティアの方に伺ったところ、「小学生くらいのお子さんが一番多く、土日は親子で利用されている方もおられます。古墳のなかに自転車で入り込んで乗り回す子どもたちもいるのでそれには注意するようにしています」とのことだった。このようなボランティアの方の存在は保護者にとっても安心して遊ばせることができるといった心理的安心感につながっているように思われる。ただ事務所が開設されているのが土日に限定されており、平日にも授乳スペースやオムツ替えスペースとしての利用などにも併用可能だと考えられる。平日の事務室の利用方法については検討課題であると考えられる。

## 5) 鏡山公園

入り口に段差はなく、なだらかな道が続いていた。アンケートでは、トイレにオムツ替えシートがないということであったが、オムツ替えシート・チャイルドキープがないのは公園入り口のトイレだけで、児童遊園付近と中央園地付近の2箇所のトイレには整備されていた。児童遊園付近のトイレ内には、簡易シャワーもあった。だが、このような設備があるということが公園内の案内看板などに掲示されておらず、周知されていないことが考えられる。

公園内は、子どもを遊ばせるには十分な広さが確保されており、整備がなされている。しかし、ブランコや砂場などの遊具付近には木陰がなく、日差しが強い夏に遊ぶ際には熱中症予防のための配慮が必要になると思われる。



図16 鏡山公園のトイレと遊具

## 6) 憩いの森公園

駐車場から近い広場に遊具が設置されているため、幼児をつれた家族にとっては利用しやすいと思われる。しかし、入り口が道路に面しているにもかかわらず柵がないために、子どもの突然の飛び出しが考えられ、安全面に配慮が必要である。また、展望台にはベンチが備えられている一方で、遊具付近にはベンチがなかった。トイレは男性・女性・車椅子用トイレはあるが、アンケートの結果の通り、オムツ替えシートはなく、チャイルドキープ、授乳スペースも見当たらなかった。しかし、トイレ付近に整備された広い部屋があり、この部屋にベビーベッドの設置や授乳スペースを設けることで、利用者の利便性が高まると考えられる。



図17 憩いの森公園の休憩所

## 7) 東広島体育館

東広島体育館の施設入り口に段差はない。トイレは男性・女性・車椅子用トイレはあるが、いずれもトイレにオムツ替えシート・チャイルドキープはなかった。しかし、館内に赤ちゃんを寝かせるスペースがあるベンチが多く備えられており、更衣室も整備されていることから、トイレの整備が十分でなくとも代替できると考えられる。自由記述には、「体育館内を見渡せる託児室があるとよい（尾道のびんご公園のように）」とあった。東広島体育館は2階から館内を見渡すことができるため、そのような要望

に比べられるだけのスペース自体はある。

### おわりに

#### 1) 子育て支援のシンボルマークの考案と活用

西条駅でスロープがあることを示すマークは多くあったが、車椅子専用のものであった。このような車椅子用のスロープや多目的トイレの利用方法に関して、西条駅、東広島市役所の職員はベビーカーでも利用可能であり、自由に使用してよいという認識であるが、保護者にはそのような認識はなかった。また、公園においては、多目的トイレがないことを不便に感じる保護者が多い。これは、多目的トイレを子どものオムツ替えや授乳スペースとして重宝している保護者が少なくないことを示唆している。多目的トイレの存在意義として、子育てバリアフリーの観点から、子育て中の保護者の視点に基づく改良を加えることが望まれる。それにより、身体障害者が使用するだけの設備のみでなく、子育て支援の面からも多目的トイレの利便性が増すことが考えられる。

そのための提案として、車椅子用のマークに加え、子育て中の保護者も使用可能なマークを考案して付けると共に広報誌による情報提供を行うことが考えられる。例えば、厚生労働省はマタニティマークと称して、妊産婦が住みよいまちづくりを進めるためのマークを考案している。また、石川県などの自治体によっては、子育てしやすいまちづくりに向けた取り組みにおいて、子育て支援のためのシンボルマークを作成している。東広島市においても、子育て中の親が子育て情報源としている子育て支援センターや広報「東広島」により、シンボルマークの一般公募を行うことによって、自治体独自のマークを活用したまちづくりが推進されると同時に市民に対して、広く情報を提供することが可能になると考えられる。

#### 2) 心理的バリアの解消

西条駅のスロープに見られたように、建物の構造が利用者の心理的バリアを生み、職員は利用を推奨していても結果的に子育て中の保護者の利用を拒む場合がある。現在、各地で子育て支援マンションの建築が盛んに行われている(大谷, 2007)。単にマンションに子育て支援施設を併設したりするものもあるが、建物の構造上の工夫により、子育て特有に生じるバリアを解消するものも見られる。このように建築学の

観点から、建物の構造が子育て中の保護者の設備利用を誘発するような工夫がなされるべきと考える。

しかし、施設設備の改良には予算がかかるため、すぐに実行に移すことは現実的には難しい。実際に子育て中の保護者は、子育てに関するバリアについて、子どもの数、子どもの年齢、移動手段、移動時の天候など、状況によって様々に変化することを実感している(高橋・野村・八藤後, 2006)。

本研究の課題でもあるが、このように状況に応じて変化するバリアを詳細に分析し、行政的な取り組みに生かしていくとともに、子育てをしていない人々に対して意識啓発を行い、さらには物的な施設設備の充実を図ることにより、子育てバリアの少ない福祉のまちづくりが現実になると考えられる。

### 付 記

本稿は、平成19年度の学園都市づくり推進事業まちづくり活動補助金(東広島学園都市交流会議)を得て行った調査結果の一部を加筆・修正したものである。

### 謝 辞

本研究を進めるにあたり、アンケートの実施にご協力いただきました東広島サムエル保育園、青雲保育園の先生方、ならびにアンケートにご回答いただきました子育て中の方々に感謝申し上げます。また、実地調査の実施に際し、ご協力いただいた施設の職員の方々にお礼申し上げます。

### 引用文献

- 厚生労働省(2002) 少子化対策プラスワン(要点)  
<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/09/h0920-1.html>.
- 厚生労働省(2004) 「少子化社会対策大綱に基づく重点施策の具体的実施計画について」(子ども・子育て応援プラン)の決定について。  
<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2004/12/h1224-4.html>.
- 松永和紀(2003) 子育てバリアフリーをめざし母親ネットがマップを作成—福岡県宗像市—。ガバナンス, 44-46.
- 大谷由紀子(2007) 住宅事情の新局面 子育て支援型マンションの動向。住宅会議, 69, 33-37.
- 高橋儀平・野村歆・八藤後猛(2006) 地域環境

における子育てバリアフリーの意識に関する調査研究.

<http://www.i-kosodate.net/mirai/research/index.html>